

令和8年熊本地震の被災地支援に係る職員派遣出発式

日時	R8.7.31(金)
	10:30~10:40
場所	本館前

松本課長：

被災地支援職員派遣出発式を開催します。

今回派遣される職員は、防災危機管理課川内康孝危機管理監、原子力安全対策課越智祐二郎主幹、防災危機管理課久米誠一郎係長、防災危機管理課松浦仁樹主事、合計4名です。続きまして、中村知事から激励の言葉があります。

中村知事：

先日、熊本地域で発生した大きな震災、30名を超える尊い命が、現段階で失われたことが確認されています。

また被害も大きく、また、長期にわたる避難生活や、復旧対策が、余儀なくされるような状況になっていると思います。

発災直後から、現地も混乱している状況ですから、その状況に応じて、体制が整ったら、すぐに必要な、対応が取れるように準備を進めてまいりました。

その中で昨日総務省の方から、「震度7を計測した氷川町の2箇所の避難所運営をやっていただきたい」という要請も受けました。

同時に、情報収集のための災害本部への派遣もございます。

避難所の運営につきましては、今日とりあえず、本部に2名、避難所に2名という体制で、第一陣として皆さんに行っていただきます。

順次、避難所につきましては、合計で8名の職員が派遣されて、運営をすることになると思いますけれども、本当に不安の中で過ごされている方々に、十分にそのお気持ちを汲み取りながら、丁寧な対応をよろしくお願い申し上げたいと思います。

また、本部におきましては、今後長丁場になりますから、しっかりと情報収集、多くの県民の皆さんも、「何かできることはないだろうか」という気持ちを持たれていると思います。

しかし、闇雲に駆けつけても、あるいは闇雲に物資を送っても、体制が整っていない状況の中で行いますと、混乱を招くだけでありますから、的確な情報のキャッチが非常に重要でございます。

順次、避難所の設営、そしてその後の避難所の運営が始まりますと、養護教員さんや、薬剤師さんや、看護師さんや、その状況状況に応じた人員派遣の必要が生まれてまいります。

是非そうした状況のキャッチ、情報のキャッチを、的確にしてもらいたいという風に思います。

なお、今回能登半島地震で、これは必要と判断し導入した大型のトイレカー。

初めて県外へ派遣することといたしました。

これは、本当に避難所では大きな戦力として役に立ってくれると思いますので、それを是非紹介して、うまく運用してもらいたいという風に思います。

真夏日、猛暑日が続きます。

皆さん、それぞれが体調を崩してしまっては、元も子ありません。

ご自身それぞれの体調管理にも十分気配りをしながら、しっかりとした、愛媛県を代表した任務を負ってきてください。

心から、期待しています。

頑張ってください。

松本課長：

ありがとうございました。

それでは出発にあたりまして決意表明をお願いします。

川内危機管理監をお願いします。

川内監：

ただいま知事より激励の言葉を賜り、身の引き締まる思いであります。

我々4名は、これから被災地熊本県に赴き、県の先遣隊として現場の被災状況、そして支援ニーズ、これらを的確に把握し事後の支援につながる役目、これをしっかり果たしたいと思います。

終わりに、今回の災害で被災された方々、そして被災地これの一助になるよう一生懸命頑張っております。どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

松本課長

ありがとうございました。

それでは派遣者が出発します。